

高等部3年 国数4グループ 学習指導案

大阪府立和泉支援学校

T1 廣田 健心

T2 関谷 勢以子

1. 日時 令和5年9月20日(水) 第5時限(13:20~14:10)

2. 場所 第3学年 1組教室

3. 学部・学年・グループ 高等部 第3学年 国数4グループ

4. 単元(題材)名 「詩を作って、互いに鑑賞しよう」

5. 単元(題材)目標

- ・見本となる詩や他の人の詩の表現技法とその効果を理解している。(知識・技能)
- ・詩を創作、相互に鑑賞し、気づいたことを発表することができる。(思考・判断・表現)
- ・詩の創作を粘り強く行い、他の人の詩の良さを認め、敬意を持って受け取ろうとしている。

(主体的に学習に取り組む態度)

<和泉支援学校キャリアプランニングマトリックス>

- ・人と「自他の理解」3段階① 相手の気持ちや考えを感じる。
- ・自分で「自己選択」4段階② 自己の個性や興味関心に基づいて、主体的な選択をしようとする。

6. 児童生徒観

高等部3年生9名で授業を展開している。このグループの生徒は、どんな課題に対しても真面目に取り組むものの、自分の考えに自信がなく、失敗したくないという思いからとにかく正解を求める傾向がある。グループ内で国語数学の学習の習熟度の差が大きいが、他の人の考えを聞いて、それを受け入れる優しさは全員が備えており、グループ内で自分が受け入れられているという安心感はこのまでの学習である程度育まれている。自分の好きなものや、世の中の物事に対する気持ちは、各々はっきりしており、それをグループ内で発表することに抵抗感はあまり大きくない。また、気持ちを適切に言語化することが難しい生徒が多い。

7. 教材観

詩の制作は、表現のルールが厳しくないなので、自分の世界観をありのまま表現しやすい。詩の制作と相互鑑賞の活動で、自分と向き合い自分の好きなものや世の中の物事に対する気持ちを言語化し表現して、それを周りに受け入れてもらうという成功体験は、卒業後自分で選択した道で自信を持って生きていく上で、非常に重要な経験となると考える。グループ内での他者理解が進み、今後の学習活動においても、より良い環境を築くことができる。

また、自分の気持ちや考えを言語化する際に、それがより正確に相手に伝わるように工夫することで他者の視点を意識して表現する力が身につく。

8. 指導観

詩の制作は制約が少ないゆえに、制作する過程で何から始めればよいか、どこで終わればよいか分からなくなることがある。制作の自由度が高ければ高いほど、自分の考えを見つけて、表現する力は求められるので、生徒の力に合わせて自由度を設定しなければならない。まずは制作するきっかけ作りとして、モチーフなどの題材を設定したり、見本となる詩を鑑賞して表現技法を学んだりする必要がある。今回の学習では段階的に題材の設定や表現方法の自由度を上げていった。

相互鑑賞については、他の人の作品を好意的に受け入れる環境づくりが何よりも大切である。学習集団によっては鑑賞のルール設定などが必要な場合があるが、本グループでは必要ないと判断して、明確なルール設定などは行わなかった。最初は、教員が率先して作品に表れる感性を褒め、表現の工夫について気づき褒めることで、鑑賞の仕方を提示し、回を重ねるごとに生徒の発表が主となるように配慮した。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①見本となる詩や他の人の詩の表現技法を理解している。 ②詩に使われている表現技法にどのような効果があるのか理解している。	①提示されたテーマやモチーフをもとに自分の思いや考えをまとめ、詩を創作することができる。 ②他の作品の表現技法を自分の作品にも活かしている。 ③相互に作品を鑑賞し、表現の工夫に気づき発表することができる。	①わからない点を教員に聞きながら、詩の創作を主体的に粘り強く取り組もうとしている。 ②他の人が創作した詩を鑑賞し、好意的に受け入れようとしている。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全6時間、本時は第6時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	1	・『生きる』谷川俊太郎を読む ・「私の好きなこと」というテーマで詩を創作する。	・『生きる』を読んで、感想を書き、表現技法とその効果について理解する。 ・好きなことをたくさん挙げて詩を創作する。	・リズムを意識して読む。 ・生徒の発見を絡めて表現技法とその効果について触れる。 ・リズムを意識して創作するように促す。	・A①、B①、B②、C①

	2	<p>・「私の好きなこと」の詩の相互鑑賞</p>	<p>・創作した詩を音読発表する。</p> <p>・他の人の詩を鑑賞して、表現の工夫などについて気づいたことを発表する。</p>	<p>・前の大きな画面に詩を映して読んでいるところを指す。</p> <p>・なるべく自由に発言できるようにし、発言について補足をする。また、次の創作に活きるようにまとめる。</p>	<p>・A②、B③、C②</p>
2	3	<p>・『きりなしうた』谷川俊太郎を読む</p> <p>・「会話をもとにした詩」というテーマで詩を創作する。</p>	<p>・『きりなしうた』を読んで、感想を書き、表現技法とその効果について理解する。</p> <p>・登場人物を考えて会話を考え、詩を創作する。</p>	<p>・会話の様子を意識して読む。</p> <p>・生徒の発見を絡めて表現技法とその効果について触れる。</p> <p>・リズムを意識して創作するように促す。</p>	<p>・A①、B①、B②、C①</p>
	4	<p>・「会話をもとにした詩」の相互鑑賞</p>	<p>・創作した詩を音読発表する。</p> <p>・他の人の詩を鑑賞して、表現の工夫などについて気づいたことを発表する。</p>	<p>・前の大きな画面に詩を映して読んでいるところを指す。</p> <p>・なるべく自由に発言できるようにし、発言について補足をする。また、次の創作に活きるようにまとめる。</p>	<p>・A②、B③、C②</p>
3	5	<p>・『』を読む</p> <p>・「絵や写真とセットの詩」というテーマで詩を創作する。</p>	<p>・写真や絵とセットになっている詩を読んで、感想を書き、表現技法とその効果について理解する。</p> <p>・好きな写真や絵をインターネットで決めてそれに合わせて詩を創作する。</p>	<p>・画像とともに読む</p> <p>・生徒の発見を絡めて表現技法とその効果について触れる。</p> <p>・リズムを意識して創作するように促す。</p>	<p>・A①、B①、B②、C①</p>

6 本 時	・「絵や写真とセットの詩」の相互鑑賞	・創作した詩を音読発表する。 ・他の人の詩を鑑賞して、表現の工夫などについて気づいたことを発表する。	・前の大きな画面に画像と詩を映して読んでいるところを指す。 ・なるべく自由に発言できるようにし、発言について補足をする。	・A②、B③、C②
-------------	--------------------	---	---	-----------

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・詩に使われている表現技法にどのような効果があるのか理解する。(知・技)
- ・作品を相互に鑑賞し合い、気づいたことを発表することができる。(思・判・表)
- ・他の人の詩の良さを認め、敬意を持って受け取ろうとしている。(学)

(2) 本時の評価規準

- ①詩に使われている表現技法の効果について説明できる。(知・技)
- ②相互に作品を鑑賞し、表現の工夫に気づき発表することができる。(思・判・表)
- ③他の人が創作した詩を鑑賞し、好意的に受け入れようとしている。(学)

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・(個人) Ipad
- ・(全体) テレビ、iPad、HDMI ケーブル

(4) 児童生徒の実態と本時の目標

※省略※

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準（評価方法）
3分 導 入	・あいさつ、出欠確認 ・前回の振り返り ・本時の内容・目標の確認	・日直によるあいさつを促す。 (分離礼) ・出欠確認 ・これまで取り組んできた、詩の表現の工夫についての振り返りを行う。 ・本時は、創作した詩の発表と鑑賞をすることを伝える。特に表現の工夫に注意して鑑賞するように伝える。視覚的に分かりやすいように目標を貼る。	・前回までの取り組みについて、正しく振り返り、本時の目標を知ろうとしている。

42分 展 開	○創作した詩の発表 ↓ ○感想や気づいたことの発表 を9人できるところまで繰り返す。	○音読発表の際には画面に作品を映し、読んでいるところを指す。 ○発表が終わったら拍手を促す。 ○感想や気づいたことを発表したい人を挙手で募る。 ○最後に作者から工夫したところなどの発表を促す。 ○生徒の発表に絡めて、作品に表れる感性や、表現の工夫についてまとめる。	作品の創作や、気づいたこと、工夫したところの発表を通じて①②③を評価する。
5分 ま と め	・振り返り ・次回予告 ・あいさつ	・発表全体を振り返り、改めて自分の作品を見直す時間を設ける。 ・日直によるあいさつを促す。	

(6) 教室配置等 (正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す)

